

令和５年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第１層協議体会議録

議題	<p>１ 令和４年度生活支援体制整備事業の活動について</p> <p>①令和４年度第２層地域支え合い推進員活動報告</p> <p>②茅ヶ崎市生活支援体制整備事業令和４年度活動報告</p> <p>２ 令和５年度生活支援体制整備事業の取組について</p> <p>３ グループワーク「買い物支援に関する情報の提供について」</p> <p>①買い物支援情報の収集について</p> <p>②検索項目の設定について</p> <p>③周知方法について</p> <p>④まとめ</p> <p>⑤グループワーク結果の発表</p> <p>４ その他</p>
日時	令和５年８月２４日（木）１３時３０分から１５時００分まで
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎５階Ａ・Ｂ会議室
出席者氏名 （敬称略）	<p>松井 新吾、山田 裕子、小澤 伸一、田島 一紀、堀内 秀行、 菅谷 和一、廣田 みつ子、高山 和茂、池田 富士夫、 鶴田 國夫、瀧田 美穂、松尾 由香、本多 祐子</p> <p>（欠席委員）</p> <p>藤尾 直史、若林 英俊、平本 哲也、小山 紳一郎</p> <p>（事務局等）</p> <p>内藤 喜之、太田 雅世、宮方 香映、津田 華奈美、柳瀬 伸子</p>
会議資料	<p>・次第</p> <p>・資料１「令和４年度第２層地域支え合い推進員活動報告」</p> <p>・資料２「茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 令和４年度活動報告」</p> <p>・資料３「買い物支援に関する情報の提供について」</p> <p>・資料４「グループワーク検討内容」</p> <p>・参考資料１「各団体等の活動状況」</p> <p>・参考資料２「茅ヶ崎市生活支援体制整備事業実施要綱」</p>
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	－
傍聴者数 （公開した場合のみ）	０人

1 開会

【茅ヶ崎市理事兼福祉部長：内藤 喜之】

本日は、ご多用のところ令和5年度第1回茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体にご出席いただき、誠にありがとうございます。

今年度は、高齢者保健福祉事業計画の改訂の年であります。計画づくりは簡単なものではなく、世の中の情勢を見ながら考えていきます。生活支援体制整備事業も、計画の中に位置づけております。この事業は、高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるよう、地域住民が世代を超えて共に支え合い、日常の困りごとを地域住民と多様な活動主体が連携、協力し、解決できる地域づくりを推進することを目的としております。

これまでの取組として、外出移動に関するアンケートの実施と分析結果、担い手不足について、構成員の皆様からのご意見をいただいております。

困りごとを抱えている高齢者を地域でどのように支えていくか、そのための仕組みを地域でどのように構築していくか、様々な地域の支え合いの取組を行っていく上で、非常に重要な課題であると考えております。

本日は、買い物支援に関する情報提供の仕組みをテーマとして、構成員の皆様からのご意見を賜れば幸いです。

高齢者の買い物支援については、都市部でも公共交通という考え方に従い、高齢者の視点を持ち計画の中に位置づけています。高齢者が増える中、高齢者の交通機関については重要な課題であります。福祉部だけでなく、都市部でも同じ様な考え方を持って臨んでいます。

限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

(2) 茅ヶ崎市生活支援体制整備事業 令和4年度 活動報告（資料2）

【第1層地域支え合い推進員：本多 祐子】

令和4年度の活動について報告をさせていただきます。まず始めに、生活支援体制整備事業の全体像について簡単に説明した上で、報告をさせていただきますので、参考資料2の要綱をご覧ください。この事業は要綱第1条にありますとおり、介護保険法に規定されている地域支援事業の一つとなります。地域支援事業には、認知症施策に関することや地域包括支援センターに関することなどがあり、そうした事業と並び、生活支援体制整備事

業も大切な柱の一つと位置付けられています。事業の目的は、要綱の第3条にありますとおり、高齢者等とその家族が住み慣れた地域で安心して在宅生活を継続できるよう、地域で支え合う体制づくりを推進すること目指しています。

茅ヶ崎市では、平成30年度より本格的に生活支援体制整備事業に取り組んでおりますが、この事業を実施する理由は、少子高齢化に伴い、地域で高齢者等を支える体制を充実していく必要があること、そして、高齢者の方々が、地域活動への参加や社会との接点を持ち続けることで、ご自身の生活の張りや心身の健康に繋げていく必要があることがあげられます。これらを踏まえ、本市では、支え合いの仕組みづくりを推進するため、要綱の第8条にございますとおり、地域支え合い推進員を配置しています。

この地域支え合い推進員は、第1層の茅ヶ崎市全体に関する事は、私を含め市の高齢福祉介護課職員3名が、そして第2層の市内13地区については、茅ヶ崎市社会福祉協議会の地区担当の職員が推進員の立場として活動しています。

第1層地域支え合い推進員の報告として、令和4年11月21日に開催された、第1層協議体の報告をさせていただきます。資料2をご覧ください。こちらの資料は、令和4年度末の令和5年3月に、令和4年度の第1層協議体の構成員へ郵送にて報告した資料となります。こちらの資料の表紙に記載されている参考資料1につきましては、今回使用しないため、添付しておりませんが、ホームページでもご確認いただけます。

また、参考資料2につきましては、この後社会福祉協議会から説明があります、第2層地域支え合い推進員活動報告の資料1の内容となります。

資料2の裏面をご覧ください。取組①「令和4年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体の開催」についてです。第1層協議体を本日同様、対面で開催しています。令和3年度の第2層地域支え合い推進員の活動の中から、浮かび上がってきた課題の一つである「高齢者の生活支援を行うための担い手の確保」をテーマとし、3つのグループに分かれ、構成員の皆さまのこれまでの活動や経験などから、様々な視点でご意見をいただきました。下の表の議題の2グループワークにありますとおり、①担い手確保の現状と課題、②担い手確保のために取り組んでいること、③担い手確保に向けた解決策について話し合っていました。具体的には、①現状と課題として、それぞれの団体や活動内容が知られていないことや、ボランティア自身の高齢化や固定化、フレイル化、があげられました。②取り組んでいることについては、高齢者については今のところ口コミが一番効果のある方法だという意見がある一方で、広報の仕方も年代毎にアプローチの仕方を変えたり、地区社協の祭りに参加したり、小中学校の体験学習に参加したりしながら次世代の

担い手を見つけていくことに取り組んでいるという新たな取組を知ることができました。

③解決策としては、来てもらう仕掛けづくりが必要、各団体でできるときにできることから協力していただけるような関係作りをしていき、地域の人たちに広めていくことが大事、若者は広報誌を読まない方が多いので、SNS、ツイッター、インスタグラム、LINE など新しいツールを活用していくと良いと言った活発な意見が出ていました。これら、第1層協議体で話し合われた内容は、第2層地域支え合い推進員に共有し、第2層地域支え合い推進員が担当地区の会議等でお伝えするなど、「担い手の確保」という課題を少しずつでも解決していけるよう、今後の活動に活かしてまいりますとしています。

資料2の2枚目「取組②」につきましては、この後社会福祉協議会から説明があります第2層の活動報告と重複しますので省略させていただきます。

第1層の活動報告は以上となります。

【質疑応答】

菅谷構成員：初めての参加で事業の内容がよく理解できません。説明がありました第1層協議体の内容については、どこで確認ができるのですか。

本多推進員：説明した内容に関しては、令和4年度の会議録に載せています。会議録は市役所ホームページの中に掲載しており、生活支援体制整備事業の項目または、審議会の項目で検索すると、過去の審議会の記録が見れるようになっています。本日の第1層協議体の会議録も後日ホームページに掲載されます。

高齢福祉課長：今年度、高齢福祉課に異動して参りました。この事業は高齢福祉介護課より行っている事業です。令和5年度より、高齢福祉課と介護保険課と2課に分かれ、高齢福祉課で担当することになりました。生活支援体制整備事業は名称が難しいので、分かりにくいところもあるかと思います。事業内容も、どの様なテーマで取り組んでいくか話し合いながら、課題に対しての解決方法を見い出していく会議体になっています。やり方がきっちり決まっているというよりは、皆で知恵を出しながら課題解決に向け、方向性を探っていく取組になっています。話し合いを重ねることにより、地域での取組が形になると考えておりますので、積極的に意見を出していただき、皆で工夫して地域の課題を解決していきたいです。

(1) 令和4年度 第2層地域支え合い推進員活動報告（資料1）

【第2層地域支え合い推進員：津田 華奈美】

令和4年度第2層地域支え合い推進員の活動について、報告させていただきます。お手元の「資料1」をご覧ください。令和4年度は様々な活動が再開された1年となりました。主にサロン、行事・イベント・講座、担い手の確保についての動きについてご報告します。

まずサロンですが、早い地区では令和4年5月から活動が再開し、11月には湘北地区の「歌の街」などこれまで控えられていた「歌う」サロンも再開しました。

また、市内13地区に設置されている地区ボランティアセンターの拠点を活用した新たな取り組みとして「南湖喫茶ぼらぼら」が令和4年5月にオープンし、現在も地域で気楽に集える場となっております。浜須賀地区ではかねてより運営されていた「カフェ庵」に加え、新たに「ほっとスペースいおり」がオープンし、鶴嶺東地区では「ま〜る」など、独居や何かしら事情のある方が集える居場所づくりに取り組みました。

コロナ禍の3年間でスタッフや参加者の高齢化、指導者の不在など様々な理由で閉会となったサロンがある一方で、新たにスタートしたサロンもありました。

行事イベント講座についてですが、地区社協の行事も多く再開され、「コミセンまつり」や「公民館まつり」など催しへの参加・出店も報告されました。

また、複数の地区ボランティアセンターで「スマホ講座」が始まりました。地区によって名称や学ぶ内容も様々ですが、「楽しく教え合い交流すること」「活動に便利な機能を習得し活かすこと」を主な目的としています。講師はボランティアセンターでスマホに詳しいスタッフが担っていることが特色です。スマホ講座の生徒は地区社協や地区ボラセンの方が中心ですが、将来的には地域住民の方々へも広げていくことを前提として活動を始めています。

担い手の確保については長年の課題であります。令和4年11月21日に開催されました、茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体でも切実な問題として取り上げられました。市社協を含め、各地区とも2つの視点を中心に、人材確保に努めています。

1つ目、地区活動を知ってもらうための取り組みです。「夏休みボラセンへ行こう月間」を企画し、広報紙での周知や、ボラセンに訪問頂いた方へボラセンの紹介が円滑にできるよう動画制作など行いました。また、市福祉政策課と市社協が協働し、YouTube、InstagramなどのSNSで、地域福祉の魅力や情報を発信しているものです。内容は、「1分でわかる地区ボラセン」といった動画や、地区活動の様子を撮影した動画、地区VCの方のインタビュー動画など、多種多彩です。公式YouTubeチャンネルのほか、市の動画ライブラリーにも掲載されています。ボランティア初心者向け講座として茅ヶ崎ボランティア連絡会と共催している「ボランティア大学」も3年ぶりに開催でき、ボランティア活動のPRと担い手の確保に努めました。

2つ目、活動者が活動をしていただけるよう様々な工夫をしました。活動を続けていただけるよう、特技や資格、出来ること、得意なことを活かした無理のない活動ができる

よう支援しました。特に「スマホが得意、パソコンが得意」という方の活動の場としてスマホ教室を開催できたことは、担い手確保の手段としての可能性も見出せました。

最後ですが、地区ボランティアセンターの活動は草取り、買い物、通院付き添い、電話相談、ゴミ出しなど多岐にわたりますが、13地区全体で見たときに一番依頼が多いのが草取り、その次に多いのが買い物となっています。買い物は重いものを持って帰れないため、ボランティアセンターにお願いしているという方も多いです。

このようなお困りごとに対して、配送業者の検索方法やネット通販の安全な利用方法を学べるスマホ教室の展開も必要になってきていると考えております。

以上でご報告を終わらせていただきます。

（３）令和５年度 生活支援体制整備事業の取組について（資料３）

【第１層地域支え合い推進員：太田 雅世】

買い物支援に関する情報の提供について、社会福祉協議会の報告にもありましたが、ボランティアセンターにお願いする内容も買い物支援が多く、生活に密着した買い物支援に対する情報の一元化にむけた取り組みを、生活支援体制整備事業で行っていけないかと考えております。運転免許の返納、加齢等による身体機能の低下、店舗の減少など様々な要因により、買い物に支障が生じている高齢者等が増えています。生活支援体制整備事業の中に、地域包括ケア支援システムというサービスを検索できるシステムがあります。こちらのシステムを活用して、買い物支援に対する情報の一元化に取り組んでいきたいと思っております。買い物支援に関する経過として、第４回ちがさきオレンジDayを昨年９月に開催し、「免許を手放した人を地域で支える」をテーマにシンポジウムを開催しました。こちらでも、移動支援や買い物支援について情報交換を実施しました。

また、専門職が集まる令和４年度地域ケア推進会議でも、「身体機能の低下や運転免許の返納などにより、買い物のための外出が困難になった方への支援について」をテーマに意見交換を実施しました。この会議の中で、買い物支援に関するサービス等について、情報がまとめて提供される仕組みがあると良い、との意見がありました。この意見を踏まえ、生活支援体制整備事業で何かできることはないか考えていきたいです。

課題は、情報不足として、大型スーパーの商品お届けサービスや通信販売サイトなど活用できるサービスはあるが、情報が分散して見つけることができない、地域の商店等の中には配達サービスなどを実施しているところもあるが、必要な方に情報が届いていない状況。また移動支援では、買い物等の支援のための車両の運行への要望が多くあるが、運転手などの人的資源、車両などの物的資源などの課題が多く、一部地域での実施にとどまっているという点があげられます。情報不足については、何か解決ができるのではないかと、取り組んでいこうと思います。デモ画面で映しています地域包括

ケア支援システムの中にいくつか項目があり、新型コロナウイルス情報という項目があるが、このページの入り口を買い物支援に関する情報を作り、KINTONE という情報サイトのアプリを活用し、何かできないかと考えております。（買い物支援情報のイメージのデモを画面に表示して説明）。お金をかければアプリを作れるが、市のアプリを活用するとなると、この程度が限界かなと思います。このアプリに情報を沢山入れていくことにより画面で検索ができるので、取り組めるのではと思い、今回皆さまに提案いたします。

情報提供する店舗等のイメージは、店頭販売以外の販売手段（配達・通信販売等）を持っている店舗で、店舗購入後の配達サービスもできる店舗。食品や生活に必要な日用品（洗剤、衣服等）の取り扱いがあること。市内に店舗等がある、又は茅ヶ崎市内在が配達等の対象範囲となっていること。飲食店については、出前サービスを行っていることとして、テイクアウトのみのサービスを行っている店舗は掲載しない。このような形で考えています。

情報を入手するためには、パソコンやスマホで検索をする必要があります。本人が検索出来ない場合には、ご家族や地域の支援者、地域包括支援センターなどの相談機関の職員が検索して、情報を伝えることを想定しています。

商工会議所との連携は、システムに掲載する情報の充実を図るため、情報収集にあたって、商工会議所の会員の商店等への周知協力を依頼しています。

スケジュールは、8月に第一層協議体で説明、10月に掲載する情報の項目を決定、12月に掲載する店舗等から情報収集、3月にサイトを公開できればと思います。

（４）グループワーク「買い物支援に関する情報の提供について」

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

運転免許の返納、加齢等による身体機能の低下、店舗の減少など、様々な要因により、買い物に支障が生じている高齢者等が増えています。本日は、「買い物支援に関する情報の提供について」というテーマで、グループワークを行います。グループワークの進め方やグループワークの進行について、事務局よりご説明いたします。

【事務局】

事務局からご説明申し上げます。

本日のグループワークのテーマは「買い物支援に関する情報の提供について」となります。資料4のグループワーク検討内容に沿って、検討をお願いします。

①買い物支援情報の収集について（商工会議所会員外の店舗等へのアプローチ方法）提案してください。②検索項目の設定について（どのような情報があつたらいいか）、

店舗名、カテゴリー、注文方法について等、どういう項目から検索すると情報が拾いやすいか、確認したい情報がでてくるか等、思い付く限り提案してください。③周知方法について、利用する方にどのような方法で伝えるかについて提案してください。

本日のグループワークは、委員の皆様にお座りいただいております3つのグループで話し合いを進めていただきます。各グループに進行役と書記を1名ずつ配置しております。時間は14時50分までとなります。事務局からの説明は以上となります。

【グループワークの実施】

「買い物支援に関する情報の提供について」をテーマに、3つのグループに分かれてグループワークを行った。

【グループワーク結果の発表】

グループ1【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課：松尾 由香】

情報サイトのアプリについて、支援者が利用するのが原則となり、地域包括支援センター、市職員、民生委員がお願いされた場合にアプリを利用し、紙で出したものを利用者に渡し、利用していただくのが趣旨ではないかという意見がでました。買い物支援の情報として、商工会議所に加入している店舗、加入していない店舗があり、大規模な店舗は大体加入しております。それに関しての情報が少ないようです。ボランティアセンターで買い物支援を依頼されることがあり、近隣の店舗で買い、1時間以内に届けて戻るような買い物支援の方法もあるようです。検索項目の設定については、店舗の住所、電話、メールアドレス、営業時間等の意見がありますが、どの位の量や期間で届けてもらえるか、幾ら買えば配送料が無料になるのか等、配達条件等も項目に入れたらよいという意見がありました。また、この仕組みを知らせるきっかけが課題であるというお話もありました。周知方法として、寒川町でLINEを利用した事例があり、高齢者もLINEを活用しており、周知に効果的だったようです。ICTを利用しない方には、印刷物を渡して紙で見ていただくのがよいという意見がありました。

グループ2【第1層地域支え合い推進員：本多 祐子】

ボランティアセンターで買い物支援の依頼が多く、店舗の配達情報を持っているので、情報を共有しながら進めていけるとおもいます。検索項目については、運ぶのが大変な物（米・トイレットペーパー・おむつ等）を検索できるとよいという意見がありました。周知方法については、本人がサイトにアクセスするのは難しいので、紙ベースの一覧表（電話で注文可能、支払いは現金等が書かれてある）があると見やすく、サイトを見る方が増えるのではという意見がでました。また、パソコン教室やスマホ教室で、実際にこのサイト

を利用したらよいのではという意見がでましたが、1回やっても家に帰ると忘れてしまうので、個別に支援者が、実際に注文するまで指導するのもよいかと思います。このサイトの周知については、顔の見える関係性があると信頼もできるので、各地区のお祭りに出向いて事例等の話しをする中で、このサイトの紹介をすると活用に繋がりやすいのではという意見がでました。このサイトは複雑化しないで、どの様に使うかの周知が重要なポイントになるかと思っています。

グループ3【茅ヶ崎市地域包括支援センター管理責任者会：田島 一紀】

グループ1、2と同じ様な意見がありました。情報収集については、商工会議所の方から色々な意見をいただきました。地域には飲食店組合、商店街組合、小さな商店組合があるが、全ての情報を収集することは大変なので、まずは大型店舗より進めていけばよいのではという意見がでました。検索項目の設定については、米、水等の品目や商品名を具体的に示すことができればよいという意見がでました。また、配達可能な日時、注文ができる時間帯の項目があれば、役に立つのではという意見がでました。周知方法については、市民の方の目に付くのは広報紙がよく、地域の支援する機関にも案内をすれば、地域に広めていけるのではないかという意見がでました。運転免許を返納した方については、免許を返納した時に警察機関がこのシステムについて説明する、入退院する方も買い物に関して困っていると思うので、医療機関にも情報提供するのがよいのではという意見がでました。また、とくし丸の移動販売、移動支援についても充実したらよいという話しも挙がりました。

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

構成員の皆様のこれまでの活動や経験などから、様々な視点でご意見をいただき、大変参考になるものでした。

皆様の日常の取り組みについて、色々お聞ききすることができ、これからも様々な機関がそれぞれの立場で、日常行っている活動についてお互い理解をしながら課題について検討していければよいと思っております。

本日、いただいたご意見については、構成員の皆様が各団体等に持ち帰っていただき、情報共有していただくとともに、各団体等からのご意見があれば、第1層の地域支え合い推進員である高齢福祉課にフィードバックしていただければと思います。

現在、地域全体で浮かび上がっている「買い物支援に関する情報の提供について」という課題を一步ずつでも、解決していけるよう、更に取り組を進めてまいりたいと思います。

(3) その他

【事務局】

今後の予定について、買い物支援情報の収集、入力作業を進めて参ります。年度末には情報の公開ができるようにしたいと思います。公開の時期に合わせ、第2回第1層協議体を書面会議として情報提供させていただくことを予定しております。

3 閉会

【茅ヶ崎市福祉部高齢福祉課長：松尾 由香】

本日は、ありがとうございました。今後一層皆様からのご協力をいただければ幸いです。以上をもちまして、令和5年度茅ヶ崎市生活支援体制整備事業第1層協議体を終了いたします。

(以上)